

26

占領期日本の衛生教育に関する研究

—映像記録にみる「公衆衛生列車展覧会」—

田中 誠二¹⁾、杉田 聡²⁾、丸井 英二³⁾¹⁾新潟大学人文社会科学系, ²⁾大分大学医学部, ³⁾人間総合科学大学

【研究の背景】 われわれは、戦後日本の公衆衛生と衛生教育に関する研究を進めている。本報告は「公衆衛生列車展覧会」(Public Health Train Exhibit)に関する研究の続報である。公衆衛生列車展覧会とは、占領期に衛生知識の普及・啓蒙を目的として列車内に健康・福祉に関する模型や写真、ポスターなどを陳列し、全国の主要都市を巡回展示した衛生教育の取り組みである。1947(昭22)年11月1日に東京・原宿駅で開催されたオープニングセレモニーのあと関東地方での運行を開始し、その後、九州地方、近畿・中国地方、北海道で巡回展示を行った。資金難を理由に計画は中断され、結果的にこの企画は1年ともたずに終了することとなったが、多くの国民の関心を集めるとともに戦後日本における多様な衛生教育活動の「起点」ともなる重要な取り組みであった。

【目的】 本報告では「公衆衛生列車展覧会」を撮影した映像記録をもとに、開会式(原宿駅)の様子と巡回展示の実際を明らかにする。

【資料】 『終戦直後と日本占領下の記録 シリーズ⑦ 日本の復興 全18巻』(エムティ出版)のうち「第17巻 経済安定への模索②」に収録された「公衆衛生列車展覧会」に関する映像記録を検討した。また、GHQ/SCAP/PHW 文書(国立国会図書館憲政資料室所蔵)中に確認されている関連文書との照合により、記録された映像内容の分析を行った。

【結果と考察】 [1]「公衆衛生列車展覧会」に関する映像記録(白黒、無声)は、(1)原宿駅で開催された開会式と(2)桐生駅(群馬県)での展示の実際を撮影したものである。[2]1947(昭22)年11月1日、原宿駅側部乗降場(皇室専用引き込み線、通称「宮廷ホーム」)にて開催された「公衆衛生列車展覧会開会式」は、来賓として当時の皇后陛下(後の香淳皇后)や高松宮宣仁親王、秩父宮妃が出席し、片山哲首相(当時)、衆参両議院議長らが祝辞を述べるなど大々的なものであった。映像には式場後方に立ち見客が出るほど大勢の人びとが参列する様子や、占領軍兵士の家族だろうか、多くの外国人の姿がある。停車した「公衆衛生列車」を背後に片山首相らが祝辞を述べたあと、通訳を従え登壇したPHW局長のC. F. サムスは、(GHQ/SCAP 文書中の“式典プログラム”によれば)約20分間の祝辞を述べた。映像のサムス局長は威厳のある表情でやや強張っているようにも見えるが、日本式に何度かお辞儀をしてから語り始めるその様子は日本人参列者に多少の親しみを感じさせたかもしれない。映像には黒塗りの自動車に揺られ会場に到着する皇后陛下の表情や列車内を視察する様子、秩父宮妃のくす玉がうまく割れずに紐だけが取れてしまうアクシデントなども映し出されている。敵かな雰囲気のもと進められた式の前半とは対照的に、後半は子どもたちの合唱や楽団による演奏など賑やかに、盛大に行われた様子が映っている。[3]桐生駅での展示は、同年12月4日から6日まで行われた。GHQ/SCAP 文書によれば3日間で計21,980名もの人びとが観覧に訪れた。列車の外で観覧を待つ長い行列や陳列された展示資料を見入る人びと、指示棒を用いて説明する乗員の姿などを見ることができる。

皇室専用ホームでの開会式の開催や皇族・日本政府・占領軍の来賓の招待、多数の参列者など、映像からは「特別な」セレモニーという印象を受ける。この「公衆衛生列車展覧会」に向けられた期待の大きさをうかがい知ることができる。今後、関連する文書史料との照合作業を進め、より詳細な検討を行う。

本研究はJSPS 科研費JP16K17384/JP20K10317の助成を受けたものである。